



朗読会には40人近くが参加し、千葉卓三郎の生き方にふれた

# 千葉卓三郎の素晴らしさを伝えたい

## 五日市憲法題材の小説「反骨」朗読会

五日市憲法草案の起草に奔走した千葉卓三郎や深沢名生、権八父子らの姿を描いた「反骨」(単行本『民の旗』)の朗読会が11月4日、羽村市川崎の宗禅寺であつた。40人近くが参加し、同憲法の見解性と起草した五日市の人たちへ思いを馳せた。同寺の土曜講座としてタクロンチーバ普及協会が主催した。

### 宗禅寺 土曜講座でタクロンチーバ普及協会

仙台藩下級藩士の家に生まれた卓三郎は戊辰戦争白河口の戦いに参戦。敗戦を味わい、真理を求めて皇学、仏教、キリスト教なども学んだ。中でもギリシヤ正教に傾倒。上京して

洗礼を受け、布教活動に携わった。明治12(1879)年ごろから秋川周辺の各地で教職に従事した。五日市勸能学校に勤めると、深沢父子ら新しい知識、思想を求め、五日市の民衆に受け入れられた。学芸講談会の活動を通じて地域の自由民権運動の質を高め、五日市憲法草案起草へと結実させてい

く。「反骨」は卓三郎を中心に近代日本の黎明期の形成に熱い情熱を投じた当時の五日市の人々の姿を描いている。朗読会は、同普及協会代表の羽村幸子さんが小説の要所を抜粋し、劇団員の塩田知佳さんが聞くものを当時に育った民権意識を記録するもの。世界

でも珍しい文化遺産』と称賛され、五日市憲法に脚光が当たった。起草から140年、真に価値あるものは長い歳月にさらされても色あせない』と話した。

会場からは「敗者、流転、命の火という言葉が心に残った。前向きになれた」、「朗読を聞き、卓三郎の人物像が明確になった」などの声のほか、羽村さんが中心となり五日市憲法を題材に4年前に製作した短編映画「みんなの憲法」で卓三郎役を務めた川崎憲治さんは「卓三郎の生き方が自分の人生に生きてい」と話した。

# 青梅市長選 大勢待氏圧勝 公約通り確かな政策を

## 東京25区の政治勢力図に変化

青梅市長選が11月12日投票開票され、新人で元市議の大勢待利明氏(48)が都民ファーストの会、国民民主推薦で、現職の浜中啓一氏(71)が自民、公明推薦に8900票近い大差で圧勝した。現場を取材してきた記者に結果と今後の焦点を聞いた。

結果については記者 保守の現新一騎打ち、自公の推薦を受けた現職の壁は厚い。それでも大勢待氏

にはしつかりとした支持基盤があり、「青梅を変えよう」との訴えで支持が子育て世代など比較的若い層にまで

上積みが勝敗ライオンと見られ、大勢待氏が望んだ形で圧勝した。投票率は40%を超すと思われたが、今の結果が理想形になる」と

記者 大勢待氏が市民の側を向き、公約通り確かな政策を進めれば公明はついてくるだろうし、良識ある自民のリーダーの戦いにも

記者 指摘した通りになつていく。都議選、市長選と同じ結果になつた。戦いの場が衆院選に変わり、井上氏と森村氏が一騎打ちとなれば青梅市は同じ結果になるだろう。ただ、25区は広く、維新や共産が候補を出すので単純ではない。それでも東京25区の政治勢力図は大きく変わった。

記者 結果は2万64日号では「2万票乗

記者 結果は2万6

の対峙が難しい。

切だ。副市長などの人

つながる。浜中氏を支える井上氏と大勢待氏を支える森村氏の戦いでもある。仮に大勢待氏が勝てば、近い将来、森村氏が衆議院選で井

記者 指摘した通りになつていく。都議選、市長選と同じ結果になつた。戦いの場が衆院選に変わり、井上氏と森村氏が一騎打ちとなれば青梅市は同じ結果になるだろう。ただ、25区は広く、維新や共産が候補を出すので単純ではない。それでも東京25区の政治勢力図は大きく変わった。

WEB版東京25ジャーナルは毎週土曜日に配信します。

25区管内の政治、経済、社会、まちの話題を掲載



情報提供・広告の問い合わせなどは 題字下メールをご利用ください。